

令和3年度第1回柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日 時	令和4年2月22日(火) 午前10時00分から午前10時45分まで
場 所	柏原市役所 本館4階 大会議室1
出席者	<p>(柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員)</p> <p>○石橋委員 (柏原市福祉こども部)</p> <p>○石村委員 (パナソニックサイクルテック株式会社)</p> <p>○市川委員 (柏原市政策推進部)</p> <p>○重森委員 (関西福祉科学大学)</p> <p>○新光委員 (大阪教育大学)</p> <p>○高木委員 (市民)</p> <p>○泊委員 (柏原市労働組合協議会)</p> <p>○西戸委員 (柏原市市民部)</p> <p>○野田委員 (大阪中河内農業協同組合)</p> <p>○橋本委員 (株式会社りそな銀行柏原支店)</p> <p style="text-align: right;">(50音順)</p>
事務局	<p>○小林 政策推進部総合政策監</p> <p>○井上 政策推進部次長兼企画調整課長</p> <p>○榎内 企画調整課参事</p> <p>○松田 企画調整課主査</p> <p>○藤井 企画調整課主任</p>
会議次第	<p>1 開会</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 推進委員会開催の目的について</p> <p>(2) 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と令和3年度の取組みについて</p> <p>3 その他</p> <p>4 閉会</p>

1 開 会

	<p>○委員会成立報告</p> <p>委員 10 名出席により、推進委員会規則第 5 条第 2 項の規定に基づいて、委員会が成立していることを報告。</p>
--	--

2 議 題

委員長	開会挨拶
事務局	<p>【資料確認】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次第 ・委員名簿 ・資料 1 柏原市まち・ひと・しごと創世総合戦略推進委員会について ・資料 2 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と令和 3 年度の取組みについて ・参考資料 重要業績評価指標（KPI）実績一覧 地方創生推進交付金事業実績一覧 <p>【委員会の運営等】</p> <p>委員会を公開とし、推進委員会議事録を作成し、公表する。 委員会開催時には傍聴者の入室を認める。</p>
委員長	【議事進行】
	(1) 推進委員会開催の目的について
事務局	(事務局 説明)
委員長	事務局の説明に対して、意見又は質問等を問う。
	(意見、質問なし)
委員長	(2) 柏原市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要と令和 3 年度の取組みについて
事務局	(事務局 説明)
委員長	事務局の説明に対して、意見又は質問等を問う。
委員	大学生等の若い世代の流出が人口減少に深く関わっている事は資料を確認し理解できた。私の在席する大学では、医療系や福祉系に就職することが多いが、柏原市には就職先となる病院や施設が少なく、市外で就職せざるを得ないため、それに伴い転出も多い。しかし、柏原市での大学生活を通じて、柏原市に魅力を感じている学生も多いことから、例えば、市内大

	<p>学を卒業した学生を対象に家賃や住宅購入費用の助成制度などがあれば、就職後も柏原市に定住する学生が増えるのではないかと。</p>
<p>委員</p>	<p>資料2の2頁に記載されている基本目標に掲げた指標のうち、「住み続けたい」と答える人の割合が高いにも関わらず、実際の人口移動においては、若い世代の転出が多くなっているとミスマッチが生じているように感じる。この点について、分析されているか。</p>
<p>事務局</p>	<p>この指標は、市民意識調査の結果をもとにしているが、年代別に分析すると20歳代において、「住み続けたい」と回答した割合が他の年代に比べて、かなり低くなっている。</p> <p>その原因を特定することはできないが、就職を機により利便性が高いと感じられる市町村への引っ越しを検討している他、大阪市内などの商業施設が多い、いわゆる都会に住んでみたいといった憧れがあるのではないかと推測している。</p>
<p>委員</p>	<p>柏原市は、商業施設はないものの、大阪市内までのアクセスは良い。このあたりも含めて、今回ご紹介いただいた学生との連協事業を進めつつ、効果的な策を実施していただければと思う。</p>
<p>委員</p>	<p>私は九州出身で、柏原市に転入してきたのは7年前になるが、柏原市に住んでからの7年間で気付いたことや感じたことをお伝えさせていただきたい。</p> <p>柏原市は、山、川などの自然が豊かである一方、先程他の委員との質疑でもあったように商業施設がないことから買い物に不便することがあり、近隣市へ行くことが多くなってしまふ。そこで、少しでも柏原市内で経済を回すため、市内にある商店街と大学生が連携でシャッターアートを行うなど、話題作りを積極的に行うことが重要ではないかと考えていた。</p> <p>以前の商店街は、子どもから高齢の方まで幅広い層の方が訪れてとても賑わっていたと聞いている。</p> <p>その当時のように商店街を活性化することができれば柏原市内での経済が回り、より住みよいまちになるのではないかと。</p> <p>もう一つは、子どもたちについて。</p> <p>これは、地域性もあるかも知れないが、私が以前住んでいた九州の子どもたちは、授業参観などで学校を訪れると、見ず知らずの私に向かって、気持ちのよい挨拶を全員がしてくれた。しかし、大阪に来てからはそのようなことは少なく残念に感じている。先生方ももちろん、教育について創意工夫なさっていることは承知しているが、未来を担う大阪のリーダーを育てるために何か考えていければと感じている。</p>

委員長	<p>委員のご指摘のように、以前の商店街はたくさんの方が買い物に訪れ、活気があったのは間違いない。ご提案いただいた大学生との連携による話題作りなどを通して活性化できればと思う。</p> <p>今後も、各委員においては、既存施策の改善点の他、新たな事業の提案などたくさんのお意見をいただきたい。</p> <p>他に意見又は質問等を問う。</p> <p>(意見、質問なし)</p> <p>それでは、以上をもって第1回推進委員会を閉会させていただく。</p>
-----	--